

# DDE プロバイダ DDE 接続

Version 1.0.0

## ユーザーズ ガイド

July 17, 2012

【備考】

**【改版履歴】**

バージョン	日付	内容
1.0.0.0	2006-02-23	初版.
1.0.0.1	2010-02-11	エラーコード追加
1.0.0	2012-07-17	ドキュメントのバージョンルールを変更

**【対応機器】**

機種	バージョン	注意事項

## 目次

1. はじめに .....	4
2. プロバイダの概要 .....	5
2.1. 概要 .....	5
2.2. メソッド・プロパティ .....	6
2.2.1. CaoWorkspace::AddController メソッド .....	6
2.2.2. CaoController::AddVariable メソッド .....	7
2.2.3. CaoVariable::get_Value プロパティ .....	7
2.2.4. CaoVariable::put_Value プロパティ .....	7
2.3. 変数一覧 .....	8
2.4. エラーコード .....	8
3. サンプルプログラム .....	9

## 1. はじめに

本書は、DDE を用いてデータの取得/設定を行うためのプロバイダである DDE プロバイダのユーザーズガイドです。

本書は、この DDE プロバイダの機能と実装されているメソッドについて説明します。

## 2. プロバイダの概要

### 2.1. 概要

DDE プロバイダは, DDE を用いてデータにアクセスする部分を CAO のインタフェースによってラップしています.

表 2-1 DDE プロバイダ

ファイル名	CaoProvDDE.dll
ProgID	CaoProv.DDE
レジストリ登録 <sup>1</sup>	regsvr32 CaoProvDDE.dll
レジストリ登録の抹消	regsvr32 /u CaoProvDDE.dll

<sup>1</sup> ORiN SDK でインストールした場合は手動で登録/抹消する必要はありません.

## 2.2. メソッド・プロパティ

### 2.2.1. CaoWorkspace::AddController メソッド

このメソッドは、引数にコントローラ名と DDE サーバとの接続パラメータを指定することで、DDE プロバイダの起動と DDE サーバへの接続を行います。以下にこのメソッドの引数仕様を示します。

```
AddController
(
    "<コントローラ名>",           // コントローラ名
    "CaoProv. DDE",             // プロバイダ名. 固定.
    "<オプション>"              // オプション文字列
)
```

以下にオプション文字列に指定するリストを示します。

表 2-2 CaoWorkspace::AddController のオプション文字列

オプション	意味
DDEServer=<DDE サーバ名>	接続先 DDE サーバ名.
DDETopic=<DDE トピック名>	DDE トピック名. このオプションを省略した場合はコントローラ名をトピック名として使います.

例 1 : Excel をサーバとした場合

サーバ名 : Excel  
トピック名 : [ファイル名]シート名

```
AddController
(
    "RC1",                       // コントローラ名:RC1
    "CaoProv. DDE",             // プロバイダ名. 固定.
    "DDEServer=Excel, DDETopic=(Book1.xls]Sheet1)" // DDEServer 名: Excel,
    // ファイル名: Book1.xls2
    // シート名: Sheet1
)
```

例 2 : CaoSQL をサーバとした場合

サーバ名 : CaoSQL  
トピック名 : CaoSQL コントローラ名

```
AddController
(
    "RC1",                       // コントローラ名:RC1
    "CaoProv. DDE",             // プロバイダ名. 固定.
    "DDEServer=CaoSQL"         // DDEServer 名: CaoSQL, DDE トピック名: RC1 (コントローラ名)
)
```

<sup>2</sup> ファイルとして保存されていない場合は拡張子の xls は付け不要です。

### 2.2.2. GaoController::AddVariable メソッド

このメソッドでは変数オブジェクトを作成します。そのオブジェクトに対応させる DDE アイテムをアイテム名として指定します。指定するオプションはありません。

### 2.2.3. GaoVariable::get\_Value プロパティ

オブジェクトに対応している DDE アイテムのデータを取得します。指定するオプションはありません。

### 2.2.4. GaoVariable::put\_Value プロパティ

オブジェクトに対応している DDE アイテムのデータを設定します。指定するオプションはありません。

### 2.3. 変数一覧

DDE プロバイダ固有の変数はありません。

### 2.4. エラーコード

DDE プロバイダでは、固有のエラーコードはありません。ORiN2 共通エラーについては、「[ORiN2 プログラミングガイド](#)」のエラーコードの章を参照してください。

### 3. サンプルプログラム

以下に, Excel を DDE サーバとして, DDE プロバイダを使って CAO 経由でエクセルのデータを読み書きするサンプルを示します.

・ サンプルプログラム起動手順

1. Excel ファイルを開き, シート名:Sheet1 のセル:R1C1 に適当な値を入力する.
2. Excel ファイルを開いたまま, サンプルコードのプログラムを実行する.

**List 3-1****Sample.frm**

```
Private eng As CaoEngine
Private ctrl As CaoController
Private var1 As CaoVariable

Private Sub Form_Load()

    Dim ws As CaoWorkspace

    Set eng = New CaoEngine
    Set ws = eng.Workspaces(0)

    ' DDE サーバ(Excel)との接続
    Set ctrl = ws.AddController("CSQData1", _
        "CaoProv. DDE", _
        "", _
        "DDEServer=Excel, DDETopic=Sheet1")

    ' DDE アイテムの取得
    Set var1 = ctrl.AddVariable("R1C1", "")
End Sub

' DDE アイテムのデータ設定
Private Sub Command1_Click()
    var1.Value = Text1.Text
End Sub

' DDE アイテムのデータ取得
Private Sub Command2_Click()
    Text2.Text = var1.Value
End Sub
```